

# 令和7年度（第64回）農林水産祭 「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」 (海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ)

農林水産祭は、優秀農林水産業者を選び、その業績を顕彰し、業績の内容について広く普及を図ることを大きな目的の一つとしています。

このため、農林水産祭事業の一環として、天皇杯等を受賞された優秀農林水産業者の業績に係るシンポジウムを実施しています。皆様のご参加をお待ちしています。(Web配信を予定。)

開催日時	令和8年2月6日（金）13時30分～16時00分 13時00分受付開始		
場所	ホテルモントレ仙台 3階 翠鳴館 宮城県仙台市青葉区中央4丁目1番8号		
参加費	無料（オンライン参加の場合、通信料は参加者負担になります。）		
業績発表者	令和7年度むらづくり部門天皇杯受賞 入谷の里山活性化協議会 事務局長 阿部忠義氏		
コーディネーター 及び選賞審査報告	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 市田知子氏 (明治大学農学部専任教授)		
パネリスト	・令和7年度むらづくり部門天皇杯受賞 入谷の里山活性化協議会 会長 阿部國博氏 同 副会長 阿部博之氏 ・コメンテーター 農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 小谷あゆみ氏 (農ジャーナリスト) 南三陸町長（予定） 千葉啓氏 宮城教育大学教育学部准教授 山内明美氏		
主催	農林水産省・公益財団法人 日本農林漁業振興会		
協力	宮城県、南三陸町		

**【参加申込方法】**（公財）日本農林漁業振興会ホームページから申込書式をダウンロードしてお申し込みください。定員（100名）になり次第、締め切らせていただきます。（お申し込みは、メール又はFAXで下記申込先あてにお願いします。また、メールで送付される場合は、件名を「2月6日（仙台市）シンポジウム参加申し込みについて」としてください。）  
申し込みの受付登録が済んだ方には、別途連絡致します。  
また、オンラインでの参加を希望される方は、別紙「オンライン参加のお申込み」をご覧の上、お申し込みください。

**【申込先】**（公財）日本農林漁業振興会事業部あて  
E-mail n\_shinkoukai96s@affskk.jp  
FAX 03-6441-0792

**【問い合わせ先】**農林水産省東北農政局農村振興部農村計画課 TEL: 022-261-6734  
(公財)日本農林漁業振興会事業部 TEL: 03-6441-0791

# 「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」

(海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ)

## 【 次 第 】

13:30~16:00 (予定)

(敬称略)

- 1 開 会 (13:30)  
公益財団法人 日本農林漁業振興会 常務理事 小栗 邦夫
- 2 挨拶 (予定) 農林水産省東北農政局長 永井 春信  
宮城県知事 村井 嘉浩  
南三陸町長 千葉 啓
- 3 選賞審査報告 農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 市田 知子  
(明治大学農学部 専任教授)
- 4 業績発表 令和7年度むらづくり部門天皇杯受賞 入谷の里山活性化協議会 事務局長 阿部 忠義
- 休 憩 (14:30~14:40)
- 5 パネルディスカッション  
・コーディネーター ( 3に同じ ) 市田 知子  
・令和7年度むらづくり部門天皇杯受賞 入谷の里山活性化協議会 会長 阿部 國博  
同 副会長 阿部 博之  
・コメンテーター 農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 小谷 あゆみ  
(農ジャーナリスト)  
南三陸町長 (予定)  
宮城教育大学教育学部准教授 千葉 啓  
山内 明美
- 6 閉 会 (16:00)

令和7 年度( 第6 4 回) 農林水産祭  
優秀農林水産業者に係るシンポジウム  
( 海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ )

令和8年2月6日(金) 仙台市 開催

参 加 申 込 書  
(オンライン参加についての申込は別紙)

申 込 月 日 月 日 受付No.  
(期限:2月5日(木) 12:00) (※本会記入欄)

下記のとおり、会場での参加を申し込みます。

受付確認のため、確実に連絡できる連絡先(E-mail・FAX・電話番号の何れか)を記入してください。

ふりがな(必須)	
氏 名(必須)	
所 属 先(役職)	
E - M A I L	
F A X 番号	
電 話 番 号	

上記の申込者を代表にして複数の方が申し込まれる場合は、代表者以外の方は、氏名等を下欄に記載してください。

役職等	氏 名

(別紙)

オンライン参加のお申込み

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ）につきましては、会場での参加のほかオンラインでの配信を予定しております。オンラインでの参加（配信）を希望される場合は、下記のとおりお申し込み下さい。

記

方 法：Zoom（ウェビナー）での配信を予定しております。

なお、ご発言やチャットによるご質問はできません。

申込先：下記のメールアドレスあてに必要事項をご記入の上、メールを送信して下さい。

(電子メールの送信先)

E-mail : n\_shinkoukai96s@affskk.jp

(公財) 日本農林漁業振興会 事業部あて

※メールの件名を

「オンライン参加申込（2月6日（仙台市）シンポジウム）」として下さい。

(記入事項)

① 2月6日（金） 仙台市開催

②所 属：

（所属機関がない場合には、職業等を記載して下さい。）

③氏 名：

④連絡先電子メールアドレス：

申込期限：2月5日（木） 12:00

ただし、定員（400名）になり次第締め切ります。

URLのお知らせ：2月5日（木）までに電子メールによりURLをお知らせします。

# 令和7年度（第64回）農林水産祭 「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」

## 【仙台市会場】

### ◆ ホテルモントレ仙台 3階 翠鳴館

宮城県仙台市青葉区中央4-1-8 (TEL: 022-265-7110)



#### ● 電車で

- ・地下鉄利用の場合

地下鉄「仙台」駅 南2番出口より 徒歩1分

- ・JR利用の場合

JR「仙台」駅 西口より 徒歩3分

#### ● 車で

- ・東北自動車道「仙台宮城インター」出口から 仙台駅方面へ約15分

※ホテル駐車場は1時間 500円（満車の場合は近隣駐車場をご利用ください）

## 令和7年度天皇杯受賞者受賞理由概要 むらづくり部門

### 海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ

○集団等の名称 入谷の里山活性化協議会（代表 阿部 國博）

○所 在 地 宮城県本吉郡南三陸町

#### ○受賞理由

##### ・地域の沿革と概要

南三陸町は、宮城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、三方を標高300～500mの山々に囲まれている。入谷地区は町内約12,000人の人口の中で2,000人弱が暮らす農村地区で、美しい里山の景観と豊かな森や田畠が広がっている。東日本大震災前から、地域にある自然の恵みや伝統文化を生かした学びの場の提供や交流促進を図り、農作業体験・モノづくり体験・調理体験などの体験プログラムの開発なども含め、グリーン・ツーリズムにも力を入れている。コロナ禍で迎えた震災から10年という節目の令和3年に「このまま応援しているだけではせっかく震災前から頑張ってきた入谷地区の取組が継承されなくなってしまう」と地域の中にいた住民たちが若者を中心とした人材育成や新たな事業創出などに動き出し、当協議会が発足した。

##### ・むらづくり組織の概要

構成員として、入谷地区の「食・体験・宿泊」を担うことができる各種施設の団体が加盟しており、「南三陸まなびの里いりやど」、「ひころの里コンソーシアム」、「南三陸農工房」、「校舎の宿さんさん館」、「南三陸YES工房」、「入谷サン直売所」の6団体が主な構成員である。下は20代、上は70代と幅広い年齢層で、地元出身者も移住者も混ざり、男女様々なメンバーで和気藹々と取り組んでいる。

##### ・むらづくりの取組概要

###### (1) 農業生産面

- ① 農業体験施設「南三陸農工房」を利用して様々な野菜を育てており、農作業や収穫の体験を通じて町外からの来訪者との交流促進とファンづくりを行っている。また、近年若者の新規就農や地域で活躍する里山保全団体も発足している。
- ② 「入谷サン直売所」は、生産者の顔が見える場所としての大切さを意識して、継続的に取り組むことにより、年間1千万円の売上を上げている。
- ③ 令和6年には、「しおかぜ葡萄」という新たなブランド葡萄の販売を開始し、地域の所得向上に寄与している。

###### (2) 生活・環境整備面

- ① 旧小学校舎を宿泊施設「さんさん館」、江戸時代末期に建築された在郷の藩士住宅を体験施設「ひころの里」、旧中学校技術家庭科室を「南三陸YES工房」として活用している。
- ② 宿泊・学び・交流の拠点として、研修室や和室、食堂、ワーケーション棟なども整備した「南三陸まなびの里いりやど」は、南三陸町全体の来訪者を受け入れる場として機能している。

##### ・他地域への普及性と今後の発展方向

本地区では、地区の文化や農業・林業などのなりわいの継承など様々な面で、移住者など地域の若者たちと共に地域おこしに励んでおり、地域資源や人材を活かした特色ある活動を行っている。旧中学校を活用したモノづくり工房で里山からの木材を加工、旧小学校を活用した宿泊施設、農作業体験、パワースポットや里山をツアーコースにするなど多彩なイベントを企画し、新たな雇用を生み出している。地域全体の総意により、農林業だけでなく、文化面も含め総合的なむらづくりを推進している本取組は、全国のむらづくりのモデル事例になり得るものである。